



自宅のウッドデッキで竹灯籠を作成中の林さんと孫の優月くん

Public relations
OZU TOWN

3
MARCH 2014

Proud!
Japan

今月のみどころ

被災地 東松島からの報告

震災から3年

復興を実感する2014年へ

宮城県東松島市の現状をお知らせします

こころの健康づくり

健康でいきいきと前向きに!

クローズアップ大津人

林隆美さん

広報おおづ 2014 3

発行・編集 ■大津市・企画課
〒869-1292 熊本東部地部大津大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3111 http://www.town.ozu.kumamoto.jp/
印刷 ■ホーア印刷株式会社
〒860-0801 大津市大津 1-1-1
※広報おおづは無料で配付して頂きます。

UD
FONT
易やしく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

諦めたら、負け。



はやし たかみ
林 隆美さん (大津)

平成25年度「県内の障がい者芸術展」の工芸部門で、「心に残った作品」として「竹灯籠 肥後六花」がハートウィーク賞を受賞した。今回は、その作品の生みの親である林さんをクローズアップする。

林さんは4年前に交通事故に遭い、頸椎を損傷して右半身まひとなった。「一生車椅子生活だとはじめから諦めていたら、本当にそうなってしまおう」と考えた林さんは、入院直後から懸命にリハビリに励んだ。その結果、現在は歩行補助機などを使って歩ける状態まで回復している。「諦めたら負けだと思っています。とにかく努力をすることが大切です。諦めたら、それ以上は伸びません」と林さんは語る。

竹灯籠を作ったり、絵を描いたりすること、林さんにとってはリハビリの一環だ。竹灯籠は、皮をむいた竹に鉛筆で下絵を書き、その下絵に沿ってドリルで穴をあけて作る。しかし、ただ穴を開けるだけではなく、穴の大きさを変えたり、バーナーで穴の部分を焼いたりするなど、模様をきれいにさせるためには一工夫が必要だ。これまでに作った作品は30点以上。完成した作品は友人や知人に譲るなどしており、とても喜ばれている。

「こんな体になったからこそ、それまでとは全然違う生き方ができたと思います。事故に遭ったことで、別の人生を見つけることができました。怪我をしたからこそ生み出せた作品や、出会えたものがあると思います」。林さんはどんなに絶望的な状況でも、諦めず前向きに生きることの大切さを教えてくれた。

ついでの声

▼先日、熊本県広報コンファレンスの表彰式に出席しました。大津町は「広報紙 町村部」「広報写真 組み写真」でそれぞれ佳作を受賞しました。これは、町民の皆さんをはじめとする多くの人の協力や支えによって得られた結果です。ありがとうございます。今後もより良い広報紙を皆さんにお届けできるよう頑張ります。(TS)

▼4月から月に1回のペースで地区担当職員として地区のサロンや行事に参加しています。世代関係なく、温かく交流を深められるこの時間が好きです。また、生活での困りごとや相談があった時にも気軽に話してもらえようになり、嬉しく思います。もっと町の力になれるよう、さまざまな人とのつながりを強めたいです。(NA)

今月の表紙

1月31日、大津保育園に3頭のポニーがやってきました。かわいいポニーに、子どもたちはみんな自然と笑顔になっていました(記事は14ページ)

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

おおづ